

お仕事探検隊

眼鏡士

桂 孝次郎さん

お客さんのメガネの悩みにじっくり耳を傾ける



「目が疲れなくなった」「ちゃんと見えるようになって人生が変わった!」などと言ってもらえるのが本当にうれしい! — お客さんの快適な「視生活」を守るためのメガネ作りをねに考える大阪市西区の「メガネのカツラ」店主・桂孝次郎さん。日本眼鏡技術者協会が発行する「認定眼鏡士」の資格を持ち、確かな知識と技術でお客さんの信頼に込めている。

眼鏡士の仕事は、お客さんが持つ眼科の処方箋を基に、顔の形や年齢、職業、どんな時に使うのかなどをふまえて、一番適切なメガネを作ることだ。

作業としては、まず視力を測り、処方箋にそって度数を決定し、レンズをメーカーに注文する。その後、メーカーから送られてくる直径70、65

快適な「視生活」を守る

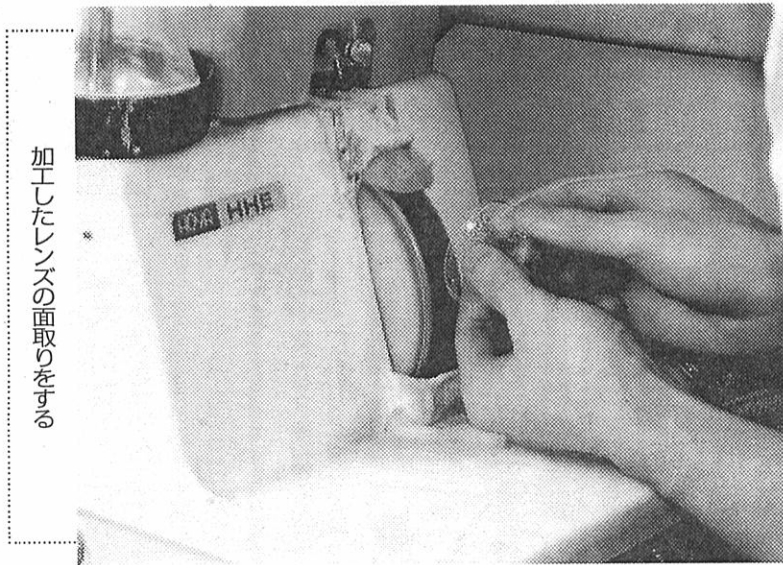
プロフィール



かつら・こうじろう
◇生年月日 1952年2月1日
◇出身地 大阪市
◇血液型 O型
◇趣味 昆虫採集
(日本昆虫学会、日本爬虫学会、日本蜘蛛学会などの会員で、著書に「観公園の自然」、「昆虫化石ハンドブック」など)

用途や症状 千差万別 難しいほどファイトわく

メガネには近視、遠視、乱視、老眼などがあり、設計技術士なら図面をひけた範囲はすっきり見たい、計理士なら細かい帳簿の字をしっかりと見たい、というように仕事の種類によってほしいメガネは違う。お客さんの生活や見たい

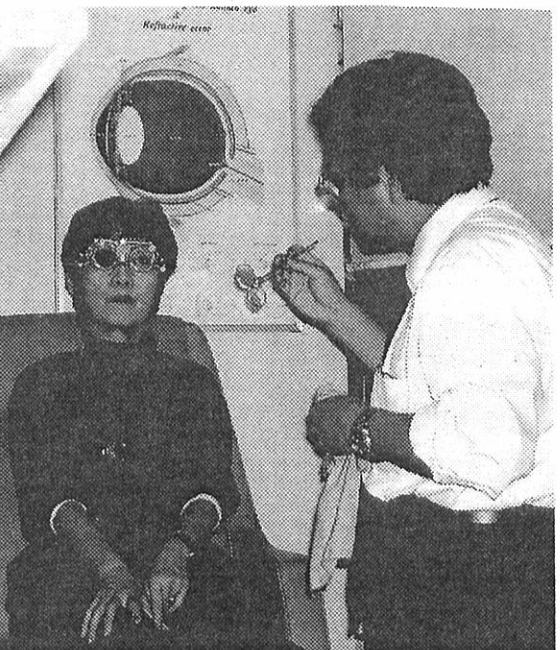


加工したレンズの面取りをする

「天井の釘が打てない」という問題が出て来店。遠近両用はメガネレンズの上部で遠くを見て、下部で近くを見る。桂さんはさんさん考えたあげく、老眼用のハネアゲ式メ

特殊なメガネの探究「生きがい」
桂さんは、店を切り盛りしながら28年間にわたって大阪大学医学部眼科外来検査室で眼科検査員として勤務していたこともあり、眼科医の紹介で、メガネ作りが難しい眼位異常(左右の視力のアンバランスなど)の人がよく来店する。

桂さんは、店を切り盛りしながら28年間にわたって大阪大学医学部眼科外来検査室で眼科検査員として勤務していたこともあり、眼科医の紹介で、メガネ作りが難しい眼位異常(左右の視力のアンバランスなど)の人がよく来店する。



レンズをつけて視力を測る

間は左右の目から入った情報を脳に送って判断するので、入ってくる情報(視力)がアンバランスだと混乱するんです。だから両眼視のバランスがよくなるような視力補正がとても大事」と、ていねいに説明。「微妙で難しいメガネ作りには特にファイトがわくんです」とにっこり。

アンバランスな情報に脳が混乱
「今まで使っていたメガネが最近30分かけているだけで首の筋が痛くなる」や「目の手術は成功したけれど、左右の目の度数の差が大きくなって頭痛がして気分が悪くなった」や「ふらふらしてつらい」と言うお客さんに「度数が合わなくなったメガネで見ていると、目が一生懸命調整しようとして変な力が入るから」と

専門学校など終え1年以上実務経験
メガネ店の開業や店員になるための資格は特に不要。眼鏡士の資格を得るには、日本眼鏡技術専門学校などの眼鏡専門学校を卒業後、または通信制を終了後、1年以上の実務経験をつむ。